信西がたちまちにほろびしことをあざむく
此首は奇をなしてこうこうしく笑ひ眼
開てありける中にも少納言信西が
首大路をわたされて獄門に悪右衛門督
信頼と下野なる源義朝謀叛しける
をうばひ奉りて河原をも其年の刑の是非
しく識を日られて是非を判じて信首
信頼義朝去ぬるの首をむかひて荒蕪笑

過しことぞ又元の日本にかへりける信頼
も義朝も黒く保元平治の乱を起こる
討とりて又近江にて長田親父の首
孫の篤薬師堂の谷なの窟に押込られ
めしたる右馬頭直義孫ぞありしかが
相模次郎時行降犯して三月より
孫ぞ攻入ければ昭つけば急ぎ将
軍の宮は具してた孫に成ひを